



公益財団法人都市活力研究所と一般社団法人うめらくは、共同でトークイベント「キタ再発見の会」「うめらく未来ミッション」を開催します。「キタ再発見の会」は、キタエリアで多くの時間を過ごされる方に、是非キタエリアの豊富な魅力を知っていただき、もっと好きになっていただくきっかけとして開催しています。「うめらく未来ミッション」は実際に地域で活動している方と、地域で活動をしたい人をつなぐ交流の場として定期開催しています。未来にミッション(使命)を感じて活動する方々がつながり合うことにより、地域活性化仲間となり、実践のきっかけとなりますよう、皆様に気軽に立ち寄っていただき、夜のひとときにゲストトークや意見交換を愉しんでいただければ幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

第13回キタ再発見の会×うめらく未来ミッション (vol.21)

□テーマ 『天神祭と生きる菅南地域の変遷』

□コーディネーター：一般社団法人うめらく 代表 山田摩利子

□ゲストスピーカー：菅南地域 後藤 孝一 様

釜田 貴美子 様

池田 和夫 様

□日時 2020年12月11日(金) 18:30-19:30

□方法 オンライン会議システムZoomによる開催

伝統行事や地域の年中行事などいろいろな角度から『地域』との関わりをつくっている菅南地域。大阪天満宮のお膝元に位置するエリアであり、昔から天神祭や大川の水辺と共に生きてきた大阪の歴史を代表する地域では、表からだけでは想像できないドラマチックな出来事をいくつも経験され、今の街のカタチとなっています。今年2020年オープンした、7年ぶりに地域コミュニティが集う会館「テラスかんなん」についてもご紹介していきたいと思います。

山田：今日は菅南地域のお2人の会長と地域福祉コーディネーターにお越しいただいています。

後藤：菅南連合振興町会 会長の後藤と申します。

釜田：菅南地域福祉コーディネーターをしています釜田です。

池田：菅南地域活動協議会 会長の池田です。

山田：今、私たちがいる場所は今年8月にオープンした菅南地域の福祉会館「テラスかんなん」です。大阪天満宮の表参道から大川に突き当たる場所に新築されました。外観は「門」をイメージされたデザインで、中に入りますと南向きの窓が広くとってあり、光も燦々としてきます。2階にある入口には、天神祭の子ども神輿が展示されていてその向かいにキッチンがあります。1階に広い部屋がありますが、適宜締め切ることができるので大部屋、小部屋といろんな使い方ができます。また、障子を開けると大川が見える解放感あふれた会館です。菅南地域の範囲は、南北は大阪天満宮の前の道路から大川まで、西は阪神高速までとなり、東は天満4丁目の一部の地域が含まれています。北区19地域の中ではいちばん面積が小さいエリアです。中でも特徴的なのは、菅原町は古い蔵がたくさん残っている歴史ある地域で、後藤会長がこのあたりにお住まいとのこと。それでは、早速ですが会長のご職業をお聞かせいただけますか？

後藤：乾物問屋を営んでいます。

山田：(古地図にも)菅原町は乾物問屋のまちと書かれていました。地図で蔵がたくさんあるのを拝見しました。全部でいくつ残っていますか。

後藤：戦争の時にここだけ焼け残りました。江戸時代、あるいは明治・大正時代に建てられた蔵が今は7〜8軒ぐらい残存しています。

山田：摂津名所図会という古い資料にも当時のエリアの様子が記されていますね。(会館には当時の様子がわかる資料が保存)

後藤：ここは大坂から江戸に物資を送る場所でもあり、ここ天神橋から天満橋の淀川河川敷に天満青物市場が作られ江戸幕府の認可を受け青物の販売を独占していました。雑喉場の魚市、堂島の米市と合わせて大坂の3大市場といわれていました。「天満市之側」というのは天満青物市場の側にある問屋街だからそう呼ばれています。

山田：「天満市之側」はどんなお商売をされる問屋さんが多かったのでしょうか。

後藤：そこが乾物問屋のメッカです。ここに店を出せたら全国的に一流店ということです。



山田：大阪は水運を使って全国に運送されていたと聞いていますが、まさにその場所ですね。次に、天満宮と地域に関わる歴史や文化について伺いたいと思います。まず天神祭ができた歴史を教えてください。

後藤：菅原道真公は大阪天満宮のご祭神ですが、ここのお宮に入られた時は「天満自在天神」が正式な呼称です。そしてその中に「天満」という名前がついていることから、この地域全体を昔から「天満」と呼ばれました。菅原道真公は現在、学問の神様として知られていますが、本来は怖い神様でした。というのは京都で右大臣までなされたわけですが、讒言にあいまして九州の大宰府に流され、翌年に菅原道真公は亡くなっておられます。その後、今という台風であるとか疫病が流行りました。今は新型コロナウイルスが流行っておりますが、昔もだいたい百年に一回はこういう疫病が流行っていたのです。それで神様を祀らないといけないうことで、京都の北野天満宮、太宰府天満宮が建てられ、三番目にこの大阪に大阪天満宮ができました。ここはもともと、大將軍社というお宮があったのですが、そこに一夜にして七本の松が生え、霊光を放ったといういわれがあります。そこにおられた方が村上天皇に申されまして勅命によってこの地に天満宮が建立される事となり、その翌年に天神祭が始まったのです。

山田：天神祭の代表的な「鉾流し」についても教えてください。

後藤：大阪天満宮では年に2回祭礼があり、夏を越す7月25日に夏越祭(天神祭)、年を越す12月31日には大祓祭というのがあります。半年間の穢れや疫病を川に流して身を清めるというのが「鉾流し」です。

後藤：鉾流橋(天満警察署前)から神鉾を川に流し、鉾の行き着いたところに御旅所をつくり、禊(みそぎ)を行うという神事が天神祭の起源とされています。

後藤：これまで御旅所は神鉾が流れ着いた先ごとに転々と建立されてきたのですが、その後、神鉾がよく流れ着く場所に固定され、これにより船渡御のコースが固定されました。また、船渡御をお迎えする「お迎え人形」の文化も始まり、天神祭が盛大に飾られていきました。

山田：天神橋筋商店街の南森町駅を上がった商店街の入り口に、当時のお迎え人形が今でも飾ってありますね。

ところで、江戸時代に「鉾流し」が始まった時は川下の方に行くコースで、現在は大川を遡るコースへと変わったと聞きましたが。それはどのような理由からですか。

後藤：もともとは川下に進んでいたのですが、終戦後地盤沈下で(川下方面の)橋げたが下がってしましまして船がそこを通れないということでしばらくは船渡御ができなかった。それでどうしようかということで考えたときに発想の転換をして、今の形になりました。

山田：今、船渡御の舟に乗られる方は何人ぐらいいらっしゃるのですか。

後藤：現在、講という組織が25ほどありましてそれぞれが船を出します。1隻に約200人のお客さんを乗せて、それに講員などが乗りますのでだいたい全体で1万人です。

山田：その他も併せて、天神祭には総勢何人の方が参加されますか？

後藤：全体で大体100万人と言われていて、天神祭の経済効果は100億円を超えます。

山田：そんな大きなお祭りができるのは、天神祭を支える方がおられるからだと思いますが、どういう組織で運営されているのでしょうか。

後藤：酒屋さんや米穀商といった職業を中心として集まっておられる講と、今ここでやっています鳳講などの地域で神輿を持っている組織があります。

山田：ということは、講は大きく分けると、「職業」の講と「地縁」の講の2つに分類されるということですね。そして、天神祭の中心である鳳講と呼ばれる組織が菅南の地縁の方々から担われているとのことですが、会長の所属されている講について詳しく教えてください。

後藤：私たちの講は、御鳳講というもので、もともとは乾物屋の職業の人が集まって明治9年に発足していて、あと4〜5年経つと150年になります。私どもの神輿には、ご神体(菅原道真公)にお乗りいただ

山田：私も入り口で会館の予約スケジュールを見せていただいたのですが、けれどもほぼ埋まっています。

後藤：書道教室とか、写生もされています。

山田: いろんな使い方ができるということなのでぜひ地域の方も地域外の方も利用してほしいですね。最後に菅南の未来、これからの想いについてお一人ずつお言葉をいただきたいです。

池田：子どもたちもどんどん増えてくれて小学校も２クラスになってきました。そういう意味では子どもたちの活動もやりやすくなってくるのかな。ただ人数が増えると安全性とか気を付けて行かないといけないので、ぼくたちも頑張りたいと思います。

山田：見守りもしっかりしていただければということで安心できるまちづくりに取り組んでおられます。釜田さん、お願いします。

釜田：高齢者の方のお世話をさせていただいていますが、もっと輪を広げて地域を楽しめていくことによって、菅南地域はいいところだということをお皆さんにわかっていただけるような活動ができればいいなと思っています。

山田：この地域の方は安心して釜田さんにご相談していただけたらと思います。菅南地域福祉コーディネーターで検索してホームページ（大阪市北区社会福祉協議会）を調べてください。最後に後藤会長の方からお願いいたします。

後藤：連合振興町会の会長をさせていただいて7年になりますけれども、菅南地域は地形的にも大阪第一の美観地区です。大川沿いを眺めましたら春は桜、秋は桜の紅葉が楽しめてほんとうにいいところです。それから私は子どものときから天神祭をやっていたから祭り大好き人間です。だから今年は新型コロナウイルスのために天神祭をはじめとするすべての行事が中止になってほんとうにしょんぼりしています。来年はぜひコロナを克服して活気のある大阪、活気のある菅南地域を構築して若い人がどんどん活躍することを祈っております。

山田：ありがとうございます。100年に1回疫病があると後藤会長が仰っておられた通り、今まさに私たちもそういう状況を迎えていますけれども、天神祭でしっかりお祀りをして、また次の100年を安心安全で過ごすことができる世界になっていくことを願っています。特に今年は、人のつながりやコミュニティが大切だと感じました。いままでこういう歴史を守ってこられた方々がたくさんいらっしゃるなかで歴史を振り返りながら今を生きていく。今を生きる私たちが何をすべきか、すごく勉強になった時間だと思います。時間の方が迫っていますがご質問がありましたら受け付けさせていただきますがいかがでしょうか。

○○

質問：今日は皆さんどうもありがとうございました。まちの再生のお話を伺いまして魅力的な資源がたくさん残っている場所だということ、私ももう少し時間をかけて歩きたいと思っておりませうけれども、先ほどの土蔵であったりとかあるいはフジハラルとかに若い感性のある人たちがビジネスをされているのでしょうか。

池田：私の事務所の2階にまちづくりで有名な会社が入居されています

質問：HOPE ゾーンの仕組みは一旦終わっていると思うのですがそれでもそれ以降地元でさらに景観を修復しようというような動きは継続しておられますか。

後藤：今菅原町の方に蔵が並んでいると申しましたがその後も最近飲食関係の方が増えてね、いわゆる隠れ家的なところで流行っているのです。蔵ですから必然的に防音性も優れているのでライブをやるなどおもしろい使い方をしています。

山田：最後に会長の音頭で本場の大阪締めをしてもらえませんかとお願いしております。今日はそれで締めたいと思います。

一同：大阪締め

一同：ありがとうございました。

